

民生病院教育常任委員会所管事務調査（行政視察）報告

民生病院教育常任委員会委員長 藤本善男

当委員会は、1月28日から29日にかけて埼玉県吉川市及び埼玉県志木市において所管事務調査を実施しました。

1月28日に訪れました吉川市は、埼玉県東南部に位置し、人口約68,000人、世帯数2万6千世帯で市の面積は31.62平方キロメートルです。

今回の調査項目は、病児・病後児保育事業および送迎保育ステーション事業についてで、最初に病児・病後児保育の説明を受けました。

吉川市では、各種のアンケート調査で、病児・病後児保育実施の要望が高く、2次医療機関より事業実施の意向があるという回答が得られたため、平成22年10月より事業が開始されました。

実施の意思がある2医療機関のうち、医療法人社団埼玉忠禎会埼玉葛クリニックはあらたに開業した、武蔵野線吉川美南駅に近く、周辺宅地開発に伴う保育ニーズへの対応に望ましい場所で、乳幼児の受診が多いため保護者からの信頼が高く、理事長の小笠原忠彦氏が当該事業に高い関心を示されていたことから、内諾を得ることができました。その後医師会の推薦を得て事業実施医療機関に決定し、埼玉葛クリニック内2階に病児・病後児保育室「めぐみ」が誕生しました。

利用条件は生後3か月から小学校3年生までの児童で、保護者の勤務の都合や疾病等により保育ができない児童や病気または病気回復期に入院の必要性はないが安静の必要がある児童となっています。

保育時間は午前8時から午後6時、休日は日曜・祝日・年末年始で利用定員は1日につき原則4名。職員体制は常勤看護師1名、保育士1名、臨時職員の看護師、保育士も確保し、常時保育士は2名体制とのこと。

料金は1人日額2,000円。利用者は事前登録制で、事業開始の平成22年9月末の事前登録者数は114名で、平成25年12月末では573名が登録。初年度の利用件数は95件ですが、平成24年度は384件、平成25年度は12月末時点で221件です。

これまで「病児・病後児保育利用の手引き」で周知を行ってきましたが、在家庭や市外保育施設利用者、転入者への周知などが今後の課題で、登園時の体調急変なども今後検討する必要があるとのことでした。

次に送迎保育ステーション事業の概要についてですが、送迎保育ステーション事業は武蔵野線吉川駅の至近距離にある社会福祉法人コビーソシオが経営するコビープリスクールよしかわステーション内が実施施設です。

吉川市では保育理念や自宅からの距離などの理由で、希望する保育所があっても、場所や送迎時間などで選ぶことができず、待機児童の増加につながっていました。

そこで、市が所有する駅前の駐輪場跡地に駅前保育所の敷地を確保し、駅前保育所の公募を行いました。応募した団体のうち社会福祉法人コビーソシオはすでに民営化した市内民間園を良好に運営しており、公募にあたり平日夜8時までの延長保育実施や、保育所の開設と送迎保育の一体運営など、保護者が求める多様な保育ニーズへの提案があり、市が目指す市内全保育所の連携構想ともマッチしたため、送迎保育ステーション事業を実施することとなりました。

送迎保育では市内8か所の認可保育所への送迎および朝と夕方の送迎前後の駅前保育所での預かりを行い、保育時間は朝7時から8時半、夕方は6時から8時までです。

土日祝日、年末年始は休日、利用定員は児童24名、料金は朝が1回100円、夕方300円、1ヶ月の場合は4千円です。

利用希望者は事前登録を行い、利用の際によしかわステーションに電話予約、予約完了後在籍園に連絡します。

事業開始時は登録人数20人、1ヶ月の延べ利用人数61人でしたが、平成25年12月時点では登録人数46人、延べ利用人数217人と利用人数は増加、事業開始後の変化として、事業実施前の入所希望保育所数は2～3カ所の希望が多かったが、その後は9認可保育所のうち7カ所以上を希望する保護者が半数を占めるなど、希望状況に大きな変化が見られ待機児童の解消が図られているとのことでした。

一通りの説明の後、まず送迎保育ステーションについての質疑に移り、委員より事業実施後の待機児童の状況はどうかとの質問に対し、送迎保育だけでは待機児童の解消は難しいが、幸い同時期にあらたな保育園が2園開園したため、これも待機児童対策に貢献している。潜在的には100名程度の待機者がいるとみているとの回答があり、別の委員より保護者の職種はどのような傾向かとの問いに、職種については把握していないが比較的通勤時間が長い保護者が多いと感じる。兄弟別々の園の場合などもニーズがあるとのことでした。また事業実施にあたって苦勞した点はどの問いに、市内全園を対象にしたが、ニーズを感じていない事業者の理解を得るため、丁寧な説明を心掛けた点が苦勞したとのことでした。

また病児・病後児保育についての質問として、伝染病や感染症などの受け入れは出来るのかとの問いに、医師の判断に従っているが、施設としては隔離部屋を三室用意し、受け入れの体制を整えているとのことでした。

また小学生の実際の利用実績はどうか、との質問に対し、利用者はあまりいない。成長し体力的に強くなっているのが要因と思うとのことでした。そのほかにも若干の質疑がありましたが、報告は省略させていただきます。

また説明、質疑の後送迎保育ステーション事業を行っているコビープリスクールよしかわステーションを訪問し、送迎バス及び保育園の見学をさせていただきましたが、こちらにつきましても報告は省略いたします。

2日目は埼玉県志木市を訪問いたしました。志木市は埼玉県南部に位置し、人口約72,000人ですが面積は9.06平方キロと大変小さい市です。

志木市では学校施設と図書館施設の複合化が調査項目です。

複合施設は学校機能である志木小学校、図書館機能としてのいろは遊学館図書館、公民館機能として、いろは遊学館という3つの機能を持ち、最初に学校施設の建設経過の説明をいただきました。

施設建設の経過は、小学校、公民館、図書館の老朽化、耐震性の問題から建て替えを検討することとなったが、「これからの学校教育は地域の協力の基に」という当時の教育長の考え方にもとづき、3つの施設を融合して建築することとなりました。

平成15年1月に志木小学校が供用開始、4月にいろは遊学館、いろは遊学図書館の供用が開始されました。当時は学校施設に侵入した人物による痛ましい事件が発生したことなどもあり、地域に開かれた施設の建設にあたっては、児童の防犯対策を心配する声が多かったとのこと。

具体的な防犯対策として、入館証の着用、運営委員会の設置、危機管理マニュアル作成、合同の防犯・火災避難訓練、常時警備員の配置、防犯カメラ設置、ガラス張りによる可視化、教員・職員のPHS常時携帯、教員と遊学館職員、行政パートナーその他従事者の連携、などを実践しているとのこと。

学校施設の特徴として、いろは遊学図書館をはじめ各学年に合った書籍を置いてあるチャレンジコーナー、授業の進度に合わせた学年スペースなど、豊かな図書環境の活用が挙げられています。

学校施設の説明の後施設見学を行い、小学校の休憩時間を利用していろは遊学図書館で児童が書籍を借りる様子を見学しました。

複合施設は4階建てで、いろは遊学図書館は2階に位置しています。図書館への入り口は2か所あり、一般者は施設正面の外階段を利用し2階のレインボーガーデンと呼ばれる連絡通路を兼ねた広間に上がり、広間から図書館へ入ります。

広間には常時警備員がおり、不審者の侵入阻止の監視を行っています。

学校側からは図書館に併設された多目的コーナーの出入口を利用し、図書館に入ることができます。

休憩時間には本を借りる児童が絶えることがなく、設置された図書検索端末での本の検索や、本の貸し出しを行う図書委員などの様子を見学させていただきました。

見学の後、公民館施設、図書館施設の説明、その後質疑にうつり、委員より防犯の予算はどの程度かと問いに、最近の改修工事で300万円、修繕費は平成24年度で200万円との回答でした。また施設建設の検討委員会人数の質問に対し、検討委員会は17人で議会も含めて行ったとの回答がありました。

地域の自主性尊重の具体的事例はとの問いに、入館する人が着用する入館証の名札は地域が自主的に実施した事例であるとのこと。

また公民館施設の夜間利用時間は10時までが、その他施設の利用時間を尋ねたところ、児童室利用は5時、図書館は7時までとのことでした。これまでの施設内でのトラブルはあったかとの問に対し、子どもがうるさいというような苦情はあったが理解を求める説明をしている。暴漢者が入ってきたことはないが、日頃よりそのような場面を想定した訓練をするようにしている、とのこと。

また防犯対策の決め手はどの質問に対しては、警備員、カメラ、名札、PHSの実行で、地域、保護者の納得をいただいた、との回答がありました。

また委員より、図書館の構造はどのように決めたのかとの質問に対し、当初案では同一フロアの職員室、パソコン、フリースペース含めすべてフルオープンの予定だったが、施設の稼働時間にズレがあるためシャッターを付けた、図書館スペースの中を分離する考えは当初から特にはなかったとのことでした。

学校施設内の図書コーナーと図書館の間で書籍が混在しないかとの質問に対し、混在は発生するが学校と連携して対処しているとのことでした。その他にも若干の質疑がありましたが、報告は省略いたします。

以上が民生病院教育常任委員会の所管事務調査の報告です。